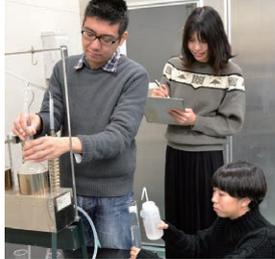




農学部 概要 2022

General Information,
Faculty of Agriculture
Kagoshima University



食と農、森と水、 基礎から最先端バイオまで



はじめに

世界的な食料問題の解決が急務とされ、国内では農山村の活性化、食料自給率の向上、食の安全・安心の保障、人と自然との環境共生など、課題が山積みしています。また、農業従事者の熟練技術をAI・ICTへと活用し作業の効率化と労働生産性の向上、ロボット技術を活用した先進的スマート農業の振興など、農畜林業の産業競争力を強化する政策が加速する中、重要な問題を解決する能力と専門知識を有する人材の養成が農学の分野に求められています。

鹿児島大学農学部は、日本で有数の食料基地に位置し、温帯から亜熱帯へ南北600kmにも及ぶ多様な自然環境を背景にフィールド教育を重視し、豊かな人間性と現場での実践力や応用力、広い視野と国際性を持った、新しい時代に向けた創造性豊かな人材の養成に努めています。特に、農林畜産物と食料生産技術の開発、生物機能の解明と応用、食の安全性確保、自然生態系の保全と修復、農山村社会の活性化に関する総合的な課題を解決する能力を身に着けた人材の養成、教育研究に取り組んでいます。

令和4年4月1日より農林環境科学科内に「スマート農学コース」を新設しました。この教育コースは、魅力ある地方大学・農学部の機能を強化するとして、農林畜産物の生産・流通・加工のバリューチェーン型教育カリキュラムを配置し、農林業のDXやグローバル化を推進するため、ドローン実習やIoTセンサーの活用等を含む農林畜産物ビッグデータを解析する知識集約型社会の構築に貢献でき、地方創生に向けた農林業を志す人材を育成します。

この冊子は、農学部・大学院農林水産学研究科の組織と教育研究、附属農場、附属演習林、附属焼酎・発酵学教育研究センターの教育施設、国際交流、社会との連携などについて解説する概要です。



学部長 橋本文雄

鹿児島大学農学部小史

鹿児島大学農学部は明治41年に創設された鹿児島高等農林学校に始まります。

初代校長は玉利喜造博士で、我が国における農学博士第1号となり、日本をリードしてきた農学教育者であります。以来、110年間に輩出された得業生、卒業生、修了生は20,780名に上り、また昭和63年に設置された大学院博士課程における学位取得者は1,161名になっています。

これら卒業生の多くが日本農業の近代化を推進して食料の供給を図り、地域社会へも大きく貢献しています。

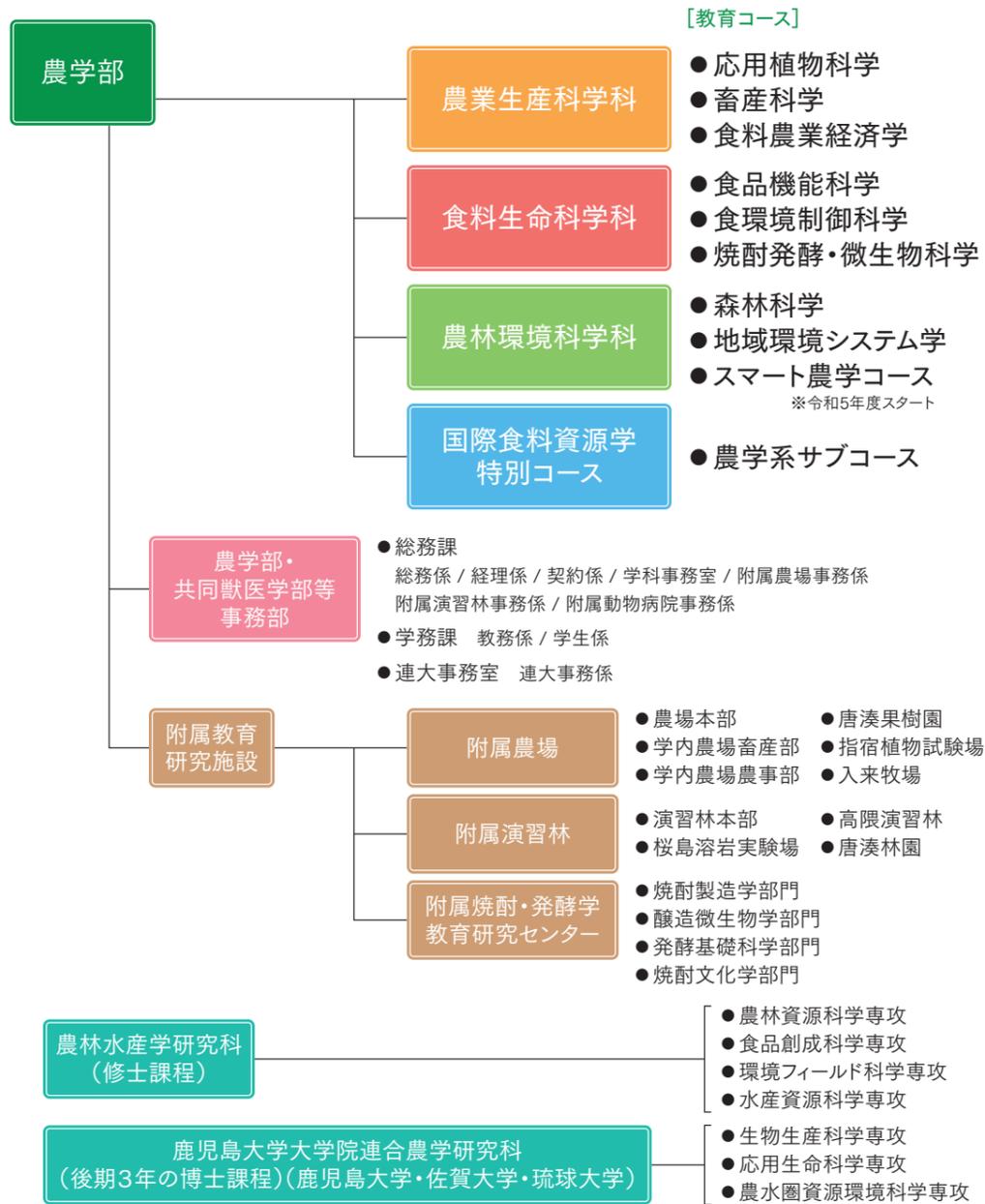


(令和4年3月31日現在)

目次

組織図	3
教育目標	4
アドミッション・ポリシー	4
ディプロマ・ポリシー	4
カリキュラム・ポリシー	4
農生産科学科	5
食料生命科学科	10
農林環境科学科	15
国際食料資源学特別コース	19
在校生からのメッセージ	21
附属教育研究施設	22
農林水産学研究科	27
連合農学研究科	28
学会賞等の受賞	29
国際交流・外国人留学生	30
農学部の4年間	31
農学部の主な進路	33

組織図



教育目標

南九州という多様な自然環境と生物資源に恵まれた地域の特性を活かし、フィールド等での実践的な教育を重視し、豊かな人間性と広い視野、応用・実践能力、国際性を備えた農林業、食品産業等及び食住農関連分野の技術者・指導者などの育成を目指します。

アドミッション・ポリシー

1 求める人材像

鹿児島大学農学部は、次のような学生を国内外から広く求めています。

- 農林業や食料生産、環境保全、生命科学の農学関連分野に強い関心を持ち、将来これらの分野で活躍をめざす意欲のある人
- 自然科学の幅広い知識と外国語の基礎的な学力を備え、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の修得に意欲のある人
- フィールドでの教育に強い関心を持ち、農学に関する実務・実技能力の向上を目指す人
- グローバル化する産業社会に参画し、地域社会、国際社会に貢献することを目指す人

2 入学前に身につけておいて欲しいこと

高等学校の国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などの幅広い基礎学力のほか、特に数学、理科の高い知識・能力が必要となります。

3 入学者選抜の基本方針

農学部では、一般入試（前期日程・後期日程）、推薦入試Ⅰ、自己推薦型入試及び国際バカロレア入試の方法によって入学者を選抜します。

- 一般入試（前期日程）では、大学入学共通テストに加え、個別学力検査を課し、基礎学力および思考力を評価し選抜します。
一般入試（後期日程）では、大学入学共通テスト成績による幅広い学力の確認に加えて、小論文形式によって、理論的思考力、記述・表現力、外国語能力を評価し、総合的に選抜します。
- 推薦入試Ⅰでは、農学への意欲と勉学・研究への潜在能力をもつ学生を受け入れるため、小論文、面接に基づいて総合判定し選抜します。
- 自己推薦型入試では、大学入学共通テストに加え、講義型試験と面接を課し、思考力・判断力・理解力及び文章での表現力などを評価し選抜します。

- 国際バカロレア入試では、コミュニケーション能力や論理的思考力、課題発見・解決能力などの資質を備えていると考えられる国際バカロレア資格取得者に対し、書類審査及び面接を行い総合判定して選抜します。

ディプロマ・ポリシー

鹿児島大学農学部は、全学の学位授与方針及び農学部の教育目標に鑑み、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

- 幅広い学術的教養を身につけており、論理的に考えることができる能力
- 農林業および食品・生命科学関連産業に関する専門的な知識を有しており、多様なコミュニケーションをとることができる能力
- 農林業および食品・生命科学関連産業の現場において、専門分野に関する地域社会や国際社会のさまざまな課題に対応する方法や技術を習得しており、問題を解決することができる能力
- 農学に関する研究課題について研究を行い、その成果を研究論文としてまとめることができる能力

カリキュラム・ポリシー

鹿児島大学農学部の学位授与の方針に沿った人材を養成するため、豊かな教養を身につけさせるとともに、農学に関連した分野の学問と知識を習得させ、フィールドにおける実践的な力を養うための教育を行います。

- 1、2年次では、共通教育科目を中心に履修させ、幅広い教養を身につけることを目指しますが（DP1）、農学の専門領域への導入的な科目も履修させて基礎を養う科目を配置します（DP1、DP2）。3、4年次では、専門領域の科目を重点的に履修する科目を配置します（DP3）。
- 2年次から3年次にかけて教育コース分けを行い、各コースごとに特色のある講義科目により基礎的な理解度を向上させるとともに（DP2）、本学部の特徴である充実したフィールドトレーニング（実験、実習）により実践力の向上を目指す科目を配置します。
- 3年次から4年次にかけて、研究室への配属を行い、教員による密接な指導や学生間のコミュニケーションと相互指導により課題研究に取り組みながら、問題解決能力を養う科目を配置します（DP4）。

役職員

令和4年4月1日現在

学部長	橋本 文雄
農林水産学研究科長	佐久間 美明
農水研副研究科長	橋本 文雄
副学部長	北原 兼文
副学部長	寺岡 行雄
副学部長	山本 雅史
学部長補佐	大塚 彰
学部長補佐	候 徳興
学部長補佐	枚田 邦宏

農業生産科学科長	後藤 貴文
食料生命科学科長	侯 徳興
農林環境科学科長	西野 吉彦
附属農場長	津田 勝男
附属演習林長	井倉 洋二
附属焼酎・発酵学教育センター長	玉置 尚徳
連合農学研究科長	寺田 竜太



農業生産科学科

Department of Agricultural Sciences and Natural Resources

応用植物科学コース

畜産科学コース

食料農業経済学コース

学科紹介

作物の栽培と家畜の飼養を通して得られる農業生産物は、私たちの生存と豊かな生活を支える源であり、その重要性は変わることはありません。さらに現在は、農業に対しても効率的かつ持続的な生産システムの構築が強く求められています。農業生産科学科は、応用植物科学コース、畜産科学コース、食料農業経済学コースの3コースからなり、日本の主要な農業生産地帯である南九州を教育・研究の場として動植物の生産管理技術の向上、生態系を生かした病害虫制御技術の開発、バイオテクノロジーによる品種改良、農業生産・流通過程の経済分析などの多彩な研究を行っています。そして、これらの研究を通じた教育によって地域から国際レベルまで幅広く対応できる人材を養成しています。

教育目標

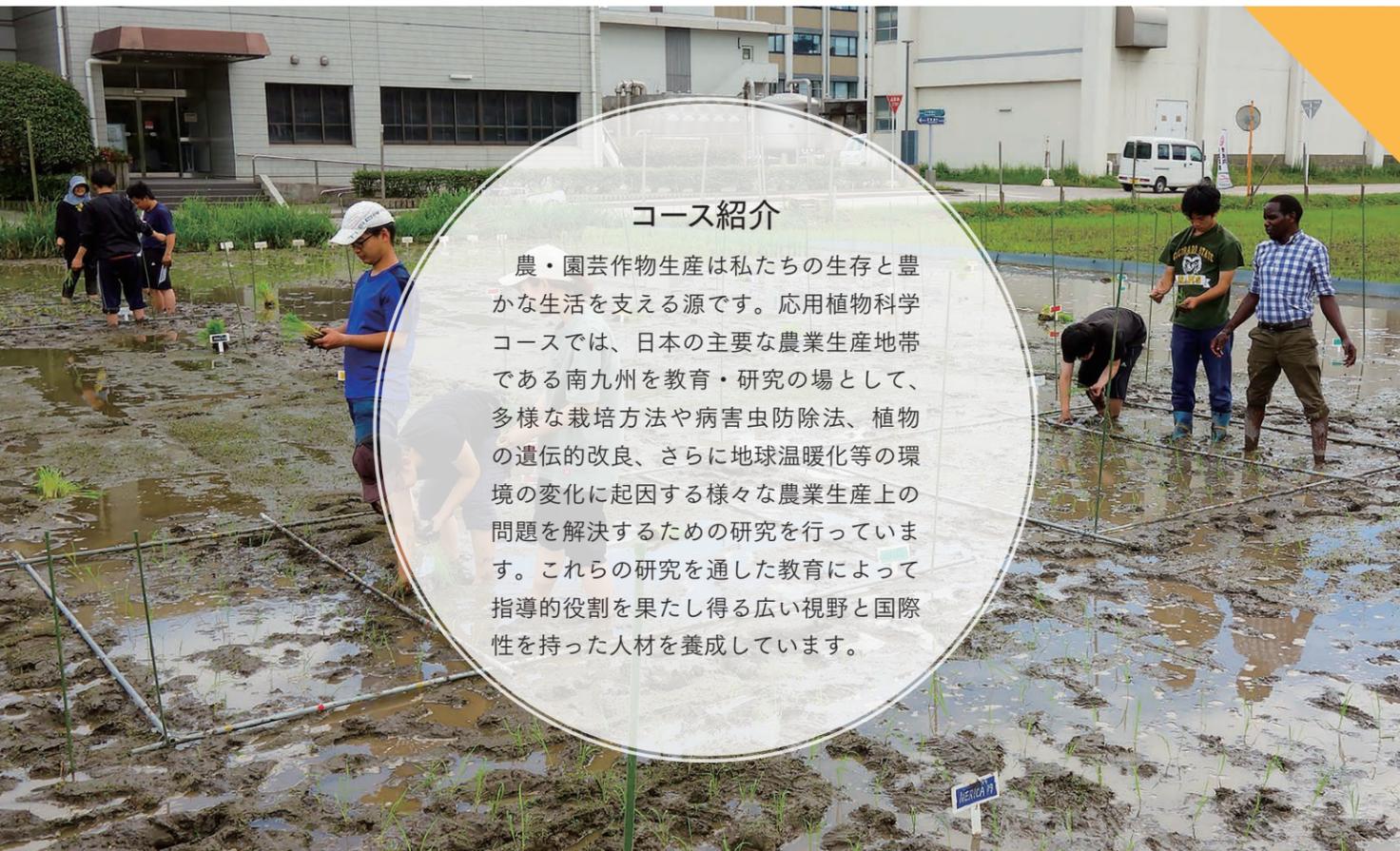
日本の主要な農業生産地帯である南九州を教育の場とし、農業生産における動植物の育種、栽培や飼養管理、農畜産物の利活用に関する知識と技術を身につけ、高品質な食料の安定供給や付加価値の高い農畜産物の創出に貢献できる人材の育成を教育目標にしている。

アドミッション・ポリシー

- (1) 英語、理科、数学の十分な基礎学力を備えている人。
- (2) 植物の栽培、動物の飼育、生物・化学実験もしくは調査に意欲のある人。
- (3) 農畜産物の生産・流通・消費に関心を持つ人。
- (4) 農村地域や農村社会に関心を持つ人。
- (5) 農作物や家畜の生産に関わる新技術やバイオテクノロジーに関心を持つ人。
- (6) 海外の農畜産業や食料資源に関心を持つ人。

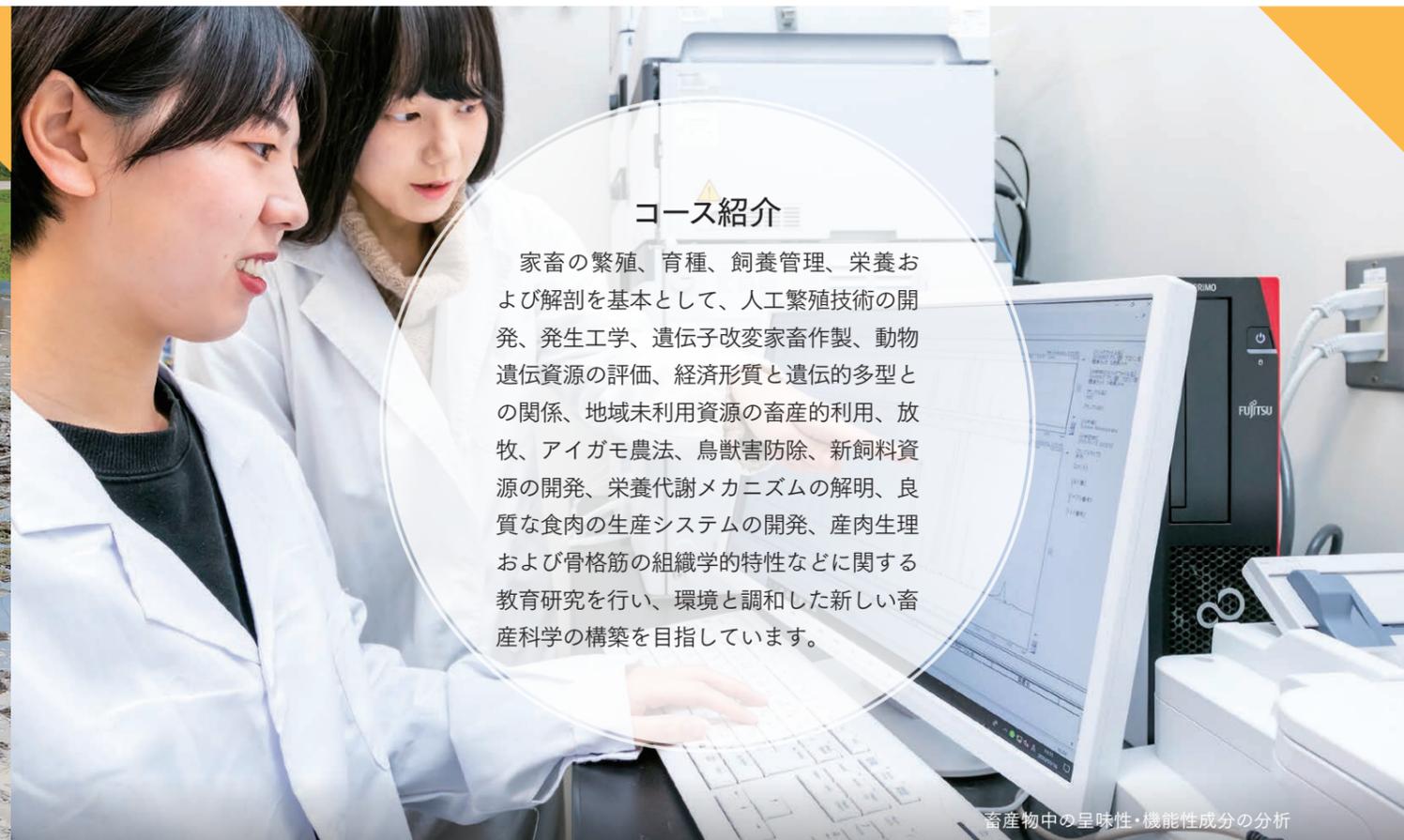
コース	職名	氏名
応用植物科学	教授	遠城 道雄
		坂上 潤一
		志水 勝好
		津田 勝男
		橋本 文雄
	准教授	山本 雅史
		一谷 勝之
		坂巻 祥孝
		清水 圭一
		下田代智英
		朴 炳宰
	講師	吉田 理一郎
		香西 直子
畜産科学	教授	大塚 彰
		岡本 新
		後藤 貴文
	准教授	三好 和睦
		井尻 大地
		大久津昌治
		大島 一郎
食料農業経済学	教授	下桐 猛
		高山 耕二
	准教授	豊 智行
		李 哉法
		坂井 教郎
助教	大住 あづさ	





コース紹介

農・園芸作物生産は私たちの生存と豊かな生活を支える源です。応用植物科学コースでは、日本の主要な農業生産地帯である南九州を教育・研究の場として、多様な栽培方法や病虫害防除法、植物の遺伝的改良、さらに地球温暖化等の環境の変化に起因する様々な農業生産上の問題を解決するための研究を行っています。これらの研究を通じた教育によって指導的役割を果たし得る広い視野と国際性を持った人材を養成しています。



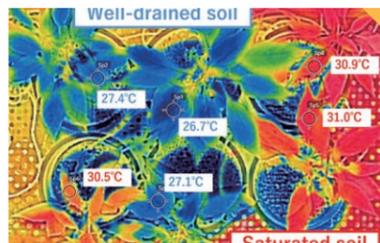
コース紹介

家畜の繁殖、育種、飼養管理、栄養および解剖を基本として、人工繁殖技術の開発、発生工学、遺伝子改変家畜作製、動物遺伝資源の評価、経済形質と遺伝的多型との関係、地域未利用資源の畜産的利用、放牧、アイガモ農法、鳥獣害防除、新飼料資源の開発、栄養代謝メカニズムの解明、良質な食肉の生産システムの開発、産肉生理および骨格筋の組織学的特性などに関する教育研究を行い、環境と調和した新しい畜産科学の構築を目指しています。

畜産物中の呈味性・機能性成分の分析



露地ナス上の害虫相調査



赤外線サーモグラフィによる葉面温度測定



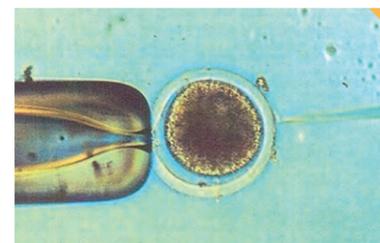
葉面積の測定



体細胞核移植により作出されたクローンマイクロミニピッグ



鳥獣害防除に向けたシカの行動学的研究



ウシ卵子への精子の顕微授精

教員からのメッセージ



香西 直子 講師

私の専門は果樹園芸学です。鹿児島県で栽培される熱帯・亜熱帯果樹や落葉温帯果樹について、気温や降水量などの栽培環境が花芽分化や開花結実に及ぼす影響を調査しています。九州本土の最南端に位置する鹿児島県は、落葉温帯果樹栽培の南限であると同時に、熱帯・亜熱帯果樹の北限でもあります。落葉温帯果樹では冬季の低温不足が春の開花不良を引きおこし、栽培が困難になりつつあり、一方で、栽培の拡大が期待されている熱帯・亜熱帯果樹においては、栽培の歴史が浅いため栽培技術の向上が必要です。私たちは、このような問題に対する解決の糸口を探るため、唐湊果樹園や指宿植物試験場など附属農場のほか、生産地域に足を運んで調査研究をおこなっています。果樹は永年性植物のため、データを得るためには時間がかかりますが、少しでも植物反応が見えたときには研究の喜びを感じます。鹿児島でしかできない研究に、これからも挑戦していきたいと思えます。

○学位/博士(農学)愛媛大学 ○専門/果樹園芸学 ○担当講義/植物遺伝資源学、農場実習

教員からのメッセージ



後藤 貴文 教授

私の専門は、食肉科学です。といっても肉そのものだけでなく、家畜の胎児から育成、肥育、そして加工まで、どのようにしたら環境や食の安全を守りながら美味しい肉を、持続的に生産できるか、を研究しています。ウシは本来ヒトが消化できない植物中繊維質を分解吸収し、タンパク質源として食肉を生産し、ヒトに供給する物質循環機能を担う草食動物です。現在の牛肉生産は、高騰する輸入飼料の多量給与による経営困難、過剰糞尿、BSE等食の安全、霜降り肉志向に硬直したマーケット及び飼養における動物福祉等、多くの問題を抱えています。一方、日本は山地が多い上に荒廃農地や過疎化による限界集落の増加等多くの問題も抱えています。しかし、そこには植物資源があります。新しい生物科学概念「代謝プログラミング」と、飼料には日本の豊富な植物資源を放牧活用し、その飼養管理には先端 ICT を駆使します。さらに販売には、エシカル(倫理的な)ダイレクトマーケットを構築します。若い農業者が未来に希望をもち、産業として世界と戦えるよう畜産業を構造改革し、大革新したいと思っています。

○学位/博士(農学)九州大学 ○専門/食肉科学、家畜栄養生理学、家畜生体機構学、家畜管理行動学
○担当講義/食肉科学、畜産化学実験など



食料農業経済学コース

Food and Agricultural Economics



コース紹介

なぜ地域(ブレイク)ブランド? 食料および農業政策は世界の貿易体制と密接な関係にあり、農産物の流通やアグリビジネスは国境を越えて展開しています。農業者は経営管理のための高度な知識を必要とし、消費者は食の安全と農村の環境保全を求めています。このような問題に社会科学的方法で接近するとともに、経済理論や経営分析、情報処理や農村調査を重視した教育研究を行っています。



ライスミルク製品開発のための試飲会



地域資源の掘起こしのための懇談会



緑茶の消費者ニーズ調査(鹿児島空港)

教員からのメッセージ



坂井 教郎 准教授

農業は作物や家畜を育てる産業ですが、それらを育てるのは「人間」です。また農産物(食料)の流通や加工、販売、消費を担うのも「人間」です。そのため食料や農業・農村に関する問題の解決には、それらに関わる「人間」と、人間の集まりである「組織」(会社、組合など)、あるいはもっと大きな単位である「社会」の側面から考えることも必要になります。

食料農業経済学コースでは、食料・農業・農村の問題について、社会科学(人、組織、社会などが研究対象)の面から教育・研究を行っています。食や農に関する現場に出かけ、農家、食品企業、消費者などへフィールドワーク、アンケートなどを実施・分析し、問題を解決する手法を習得することもその中の一つです。

○学位/博士(農学)鹿児島大学 ○専門/農業政策、島嶼農業論 ○担当講義/農業政策学、農産物価格理論



農家調査の様子



農村調査実習の様子



焼酎工場調査の様子



食料生命科学科

Department of Food Science and Biotechnology

食品機能科学コース

食環境制御科学コース

焼酎発酵・微生物科学コース

学科紹介

当学科では、化学の知識を基本にして、人の生活を豊かにする生命科学分野と作物生産に関連する土壌科学を含む幅広い領域について学習することが出来ます。もちろん、これらに関連した食品や環境科学、バイオテクノロジーの領域も含まれています。学科の3つの教育コースの特徴をあげると、食品機能科学コースは、食品と健康という視点で細胞や動物個体レベルでの食品機能の評価や食素材の開発をめざす分野です。食環境制御科学コースは植物の生育とその前後、土壌やポストハーベストを含めた領域をカバーする分野です。焼酎発酵・微生物科学コースでは、焼酎に関する香味特性、新規製造技術、微生物の育種と特性解明等について研究する分野です。

教育目標

食品の安全確保、食品の栄養生理・機能と健康との関わり、微生物をはじめ生物機能の利用に関する知識と技術を身につけ、食に関係する分野および地域産業として特色のある焼酎・発酵食品産業で活躍できる人材の育成を教育目標にしている。

アドミッション・ポリシー

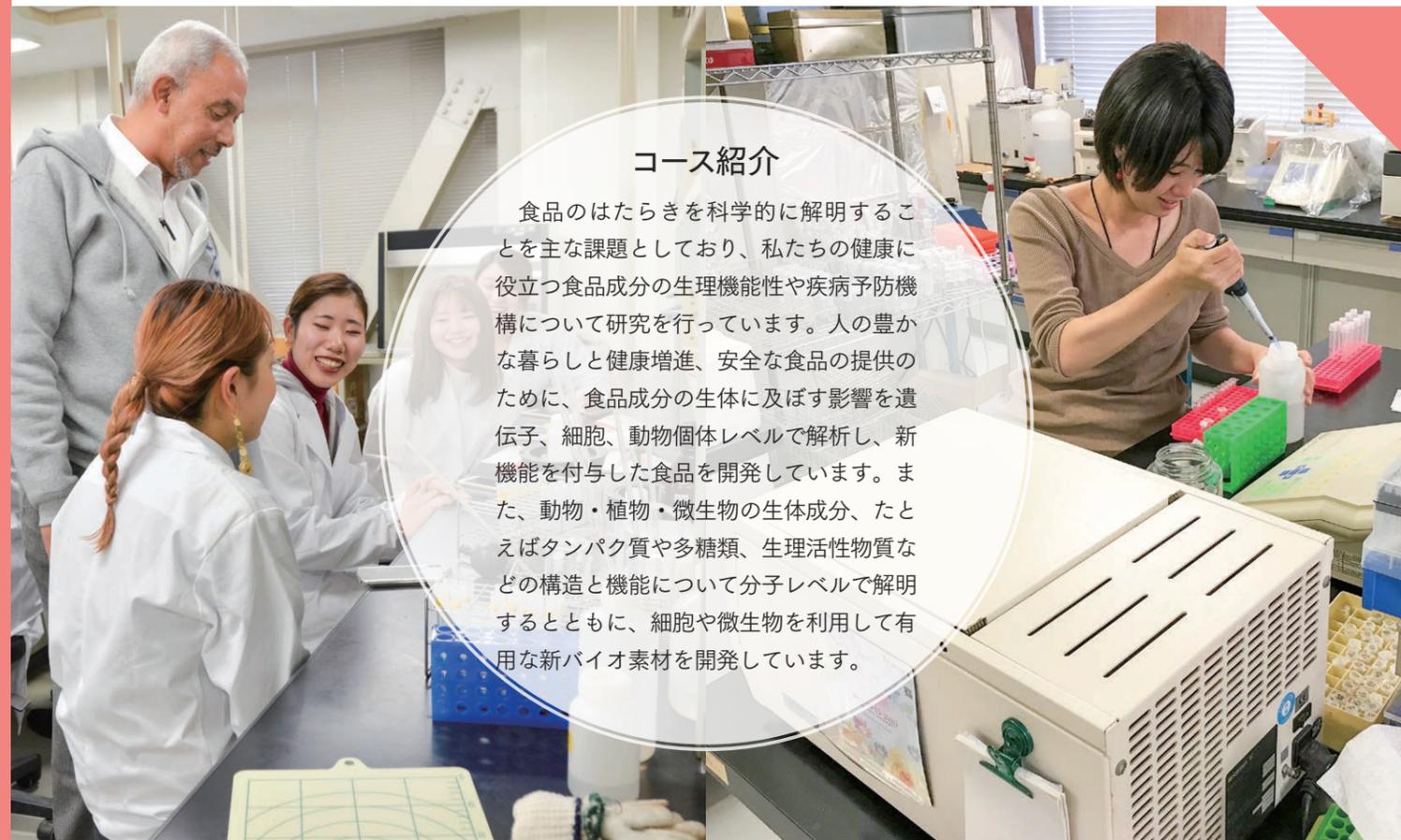
- (1) 化学と生物学の十分な基礎学力を備えている人。
- (2) 物事に自発的に取り組み、実験や研究に意欲のある人。
- (3) 動植物・微生物の生命現象や食の安全、食品の機能性、発酵食品などに関心のある人。

コース	職名	氏名
食品機能科学	教授	北原 兼文
		侯 徳興
	准教授	花城 勲
		藤田 清貴
		南 雄二
		宮田 健
助教	加治屋勝子	
食環境制御科学	教授	坂尾 こそ枝
		岩井 久*
	准教授	境 雅夫
		池永 誠
		岡本 繁久
		紙谷 喜則
		樗木 直也
		中村 正幸
		濱中 大介
	渡部 由香	
	助教	赤木 功
焼酎発酵・微生物科学	教授	石橋松二郎
		高峯 和則
		玉置 尚徳
	准教授	二神 泰基
		吉崎由美子
助教	鶴丸 博人	
特任助教	奥津 果優	

※兼務

食品機能科学コース

Food Chemistry and Biofunction



コース紹介

食品のはたらきを科学的に解明することを主な課題としており、私たちの健康に役立つ食品成分の生理機能性や疾病予防機構について研究を行っています。人の豊かな暮らしと健康増進、安全な食品の提供のために、食品成分の生体に及ぼす影響を遺伝子、細胞、動物個体レベルで解析し、新機能を付与した食品を開発しています。また、動物・植物・微生物の生体成分、たとえばタンパク質や多糖類、生理活性物質などの構造と機能について分子レベルで解明するとともに、細胞や微生物を利用して有用な新バイオ素材を開発しています。



食品中の成分分析

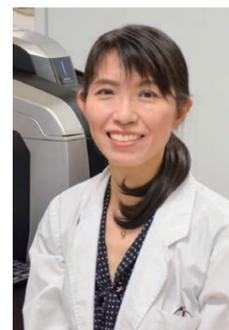


酵素法による糖の選択的定量



オリゴ糖の機器分析

教員からのメッセージ



坂尾 こそ枝 助教

皆さんが日々口にする食品には三つの基本的な機能があることがわかってきています。生命維持のための一次機能（栄養素）、味・香り・美味しさなどの二次機能（感覚・嗜好）、そして体調のリズム調節や生体防御、疾病予防などの健康を維持する三次機能（体調調節）です。食品機能科学コースでは、食品に含まれるこれらの機能性を科学的根拠と共に明らかにしたり、高い機能性をもつ食品を探索したり、逆に食品機能を利用してワクチン開発や抗がん剤を作製してみたりと、様々な実験を実施している研究室が沢山あります。

皆さんが食べているものが、どのような機能を発揮するのかを知りたくなったら、是非、食品機能科学コースを覗いてみて下さい。

○学位/博士(農学)鹿児島大学 ○専門/食品科学、分析化学、有機化学
○担当講義/分子食品学、分子機能科学実験、他



食環境制御科学コース

Food Safety and Bio-Environmental Science



コース紹介

農作物の生産に関わる土壌環境、植物の病害、植物の生理と栄養などと、農作物の保蔵・加工・流通にかかわる過程について教育研究しています。これらのことはさまざまな面で、食の安全を確保することに深く関わっています。環境を保全しながら高品質で安全な食品を、安定的に持続的に供給することを目指し、研究と実践的な人材養成に取り組んでいます。



焼酎発酵・微生物科学コース

Fermentation Technology and Microbial Science



コース紹介

焼酎をはじめとする発酵食品は固有の気候風土と農産物を背景に、その製造法や原料、微生物の特性を理解して活用することでオリジナリティー溢れる市場を創出してきました。本コースは、その風土性と伝統性を学びつつ新たな展望を開くための研究開発と、微生物の機能を分子レベルで解き明かしその利用や開発を行うことを目指しています。本コースの3つの研究分野の特徴をあげると、焼酎製造学分野は焼酎や発酵食品の香り成分の同定や機能性の検索を通じて新たな製造法や機能性食品素材の開発を目指します。醸造微生物学分野は醸造微生物の育種とその機能を解明します。応用分子微生物学分野は微生物に秘められた優れた能力を分子レベルで解明しその利用や開発を行います。



トマト病原菌を抑える実験



植物病原細菌の培養



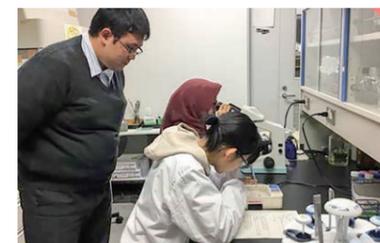
農産物生産の基礎を学ぶ



発酵試験



白麹菌の顕微鏡観察



ゲノムDNAやPCR産物等の解析

教員からのメッセージ



池永 誠 准教授

土壌など食料環境を取り巻く環境には、至る所に微生物がいます。一見すると、微生物は複雑なことをしてなさそうですが、実は微生物は互いに相互作用しながら生きています。さて、土壌微生物学の研究分野にも次世代シーケンズによる網羅的解析法が登場し、「遺伝子を読む時代」から、「遺伝子から読み解く時代」に移り変わってきました。これにより、微生物間相互作用の解明が可能になっただけでなく、読み解いた遺伝子の中から、従来の微生物の培養実験では得られなかった、新奇な機能も発見されてきました。私たちの研究室では、網羅的解析技術を駆使して微生物が持つ潜在力を解明し、微生物の機能を農業に活かす研究を進めています。

○学位/博士(農学)名古屋大学 ○専門/土壌微生物学
○担当講義/農学入門、無機化学、食環境微生物学、Advanced Plant Production Science、他

教員からのメッセージ



二神 泰基 准教授

発酵産業では微生物のはたらきを上手くコントロールすることで、様々な発酵食品や有用物質がつけられています。発酵は私たちにとって身近な存在なので、そのメカニズムについても全て分かっていると思われがちですが、実は分っていない興味深い現象がたくさん存在しています。例えば、私が研究している焼酎造りに使われる麹菌が大量のクエン酸を生産できる能力もそのひとつです。私たちはこのようなブラックボックスを解明するための研究やその成果を利用した新技術の開発に取り組んでいます。

微生物の性質を分子のレベルで理解することは、有用物質を効率よく生産したり、美味しく体に良い発酵食品を製造したりする技術の開発につながります。私たちと一緒に、日々の微生物の研究を通して発酵の様々なメカニズムの解明や新しい発酵技術の開発を行ってみませんか。

○学位/博士(農学)九州大学 ○専門/応用微生物学、発酵化学
○担当授業/遺伝子工学実験、醸造微生物学など



農林環境科学科

Department of Environmental Sciences and Technology

森林科学コース

地域環境システム学コース

学科紹介

農林環境科学科には、森林科学と地域環境システム学の2つの教育コースがあります。本学科では、森林管理・計画、森林・林産物の利活用、森林技術者養成、バイオマス資源の生産と利用、農業環境情報、砂防・水文、農地や水資源の保全と管理、および環境教育に関する教育研究を行っています。

教育目標

農林環境科学科では、地域農林資源の利活用および森林や農地の保全と防災に関する知識と技術を身につけ、自然と調和した農林業生産の基盤づくりおよび農山村の振興や生活環境の維持と創出に貢献できる人材の育成を教育目標にしている。

アドミッション・ポリシー

- (1) 数学、物理、化学、生物、地学、社会、外国語の基礎学力を備えている人。
- (2) 地域資源を利用した農業や林業の振興、森林や農地といった国土の整備・保全のための勉学に意欲を持つ人。

コース	職名	氏名
森林科学	教授	枚田 邦宏
	准教授	鶴川 信
		加治佐 剛
		寺本 行芳
	助教	畑 邦彦
		奥山洋一郎
榮村奈緒子		
地域環境システム学	教授	牧野 耕輔
		地頭 隆
		寺岡 行雄
	准教授	西野 吉彦
		伊藤 祐二
		井倉 洋二
		神田 英司
		肥山 浩樹
	助教	末吉 武志
		平 瑞樹





森林科学コース

Forest Science



地域環境システム学コース

Environmental and Bioresource Engineering



コース紹介

暖帯林から亜熱帯林の森林生態系に関する理解を深め、国内有数の木材供給基地である南九州の森林資源の循環的利用と森林や山地を中心とする国土保全のための計画・管理に関する知識と能力を持った人材を育成します。

森林資源の循環的利用に関する研究

世界自然遺産の森林生態系に関する研究



コース紹介

地域環境システム学コースは、自然と調和した農業生産の向上や持続可能な地域環境を創出するため、地域資源の管理や環境の保全、農業生産基盤の整備および地域防災に関する情報の発信について教育研究を行っています。

離島の農業用水確保のための地下ダム建設調査



ICT林業に関する研究
(ドローンを活用した森林情報の収集)



高隈演習林での実習
(チェーンソーでスキの伐採を体験)



ドイツ・ロッテンブルグ林業大学との学術交流
(ドイツの森の管理についての講義)



沖永良部島におけるサトウキビの水消費に関する現地調査

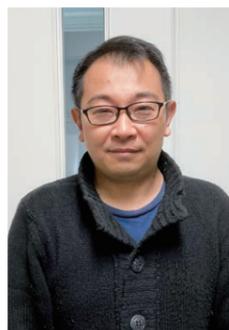


深層崩壊発生場の予測のための水文調査



ドローンによるアーモンド畑からの情報収集

教員からのメッセージ



鵜川 信 准教授

主に、人工林を育成する方法(苗木の育て方や植栽方法、植栽後の管理方法)や天然林の生態系の仕組みについて研究と教育を行っています。最近、速く成長する樹木を用いた二酸化炭素固定の研究、新しい世界自然遺産である奄美群島の生物多様性維持の研究に取り組んでいます。林業や多様性保全はSDGsに直結する活動です。森林を通して、皆さんといっしょに、地球の未来、地域の未来、そして、人間の未来を考えていければ嬉しいです。

○学位/博士(環境学)東京大学 ○専門/育林学、森林生態学、環境保全学
○担当講義/育林学、森林生態学、樹木実習、育林学実習、他

教員からのメッセージ



肥山 浩樹 准教授

わが国有数の食料基地である鹿児島県は、火山に起因する様々な特殊土壌と南北600kmに及ぶ多彩な自然環境が特徴です。食料生産の基盤である農地の整備や農業に必要な水の有効利用、さらには農村地域の環境整備を通して、地域全体の持続的発展や循環型社会の構築を目指しています。最近の研究は、地すべりなどの農地災害が発生するメカニズムの究明や対策、作物の吸水や蒸発に伴う地盤内の水分動態の解析、建設発生残土の有効利用などです。主に土や水などの地域資源を環境に配慮して管理する技術を開発しています。

広大なフィールドで、農業や農村の将来に向けた課題解決に汗を流してみませんか。

○学位/博士(農学)九州大学 ○専門/農業農村工学、地盤工学
○担当授業/地盤環境工学、農地保全学、測量学実習Ⅰ、他

国際食料資源学特別コース

Special Course in International Food and Resource Sciences

アドミッション・ポリシー

特別コースは、次のような学生を求めています。

- (1) 国際食料資源学特別コースの教育目標に共感し、その実現に向けて考える力と意欲を持つ人。
- (2) 国際的視点に立った食料・資源問題の解決に熱意と意思を持つ人。
- (3) 実用的な英語力の強化に意欲のある人。
- (4) 学ぶことに努力を惜まず、社会の持続的発展に取り組む意欲を持つ人。

コース	職名	氏名
農学系 サブコース	教授	遠城 道雄
		坂上 潤一
	准教授	フェスターガード C ムンデランジ

国際食料資源学特別コース

Special Course in International Food and Resource Sciences



特別コースの紹介

特別コースでは、東南アジア・南太平洋・アフリカを中心とした国際社会を対象として、食料資源の持続的生産とその合理的利用の分野の専門知識を修得し豊かな世界観と倫理観を備え、グローバル化する産業社会に参画し、国際社会に貢献できる人材を養成しています。農学部と水産学部の連携で設置されているコースで、農学系サブコースと水産学系サブコースから構成されていますが、農学と水産学を共に学ぶことができます。



熱帯作物キャッサバの収穫



ドラゴンフルーツの栽培



キャッサバの植え付け

教員からのメッセージ



坂上 潤一 教授

本特別コースの学生は、他の学科・コースとは異なったカリキュラムで学んでいます。農学を基盤とした食料資源学を専門とし、国際的な活動を可能にする英語等の語学力を向上します。さらに、理系学部にはない、国際協力・開発などの文系分野の学びも充実しています。4年生時にはアフリカ、南米、東南アジア、ヨーロッパなどに学生が派遣され、卒業プロジェクトを実施しています。特別コースには、日本各地から多様な学生が集まってきており、また文部科学省の外国人費留学生優先配置プログラムの留学生が配置されるなど、鹿児島に在りながら国際的な環境でキャンパスライフを楽しめます。本コースは、世界的な食料資源問題、地球環境問題などグローバルな課題の解決に興味があり、世界で活躍したいと思っている人にはお勧めです。私たち国際経験豊かな教授陣がサポート、バックアップします。

○学位/農学(博士) 千葉大学 ○専門/熱帯作物学
○担当授業/国際食料資源学、熱帯作物学、植物遺伝資源学、Agricultural Production Scienceなど

在校生からの メッセージ



食料生命科学科 食品創成科学専攻 修士課程1年

肥田 祐輔

私は、食品成分で病気を予防し、人の健康に寄与したいという思いをもって、大学で予防医学の研究をしています。また、自分で研究した成果を活用し、食の面から鹿児島県を盛り上げていけるように取り組んでいます。熱心な先生方も多く、研究のやりがいを感じています。本学科では、焼酎や食品管理、微生物など、食品に関わる様々なことを学ぶことができます。食品に秘められた可能性と一緒に探索していきましょう！

国際食料資源学特別コース 4年

藤本 夏央

本コースでは、農水産学の食料資源問題をグローバルな視点で幅広く学び、その中で最も興味を持った分野に進むことができます。少人数のコースなので、留学生も含め仲間と親密になれることが魅力です。研究室選択では皆それぞれの分野に進みますが、世界中の人々に豊かな食料資源を届けたいという思いは共通しています。世界を舞台に活躍できるような積極性と行動力を備えた学生が多いことが特徴です。



農業生産科学科 応用植物科学コース 4年

高橋 龍成

このコースでは、植物科学から害虫学まで幅広く学習できます。また、実習などを通して実践的な学びや研究を行えます。卒論では、バイオテックからフィールドまで様々な分野を選択できます。植物や害虫について学習や研究をしたい人にお勧めです。

農林環境科学科 森林科学コース 4年

池田 裕作

私は森林に生息する生物に興味があり、卒業論文では奄美大島の森林性鳥類種の調査をテーマに研究を行っています。フィールドワークも充実しており、森林内の雰囲気を体感しながら、自分の目で見て学ぶことができます。南北600kmにも広がる大自然のキャンパスでともに学んでみませんか？



附属教育研究施設

Facilities of the Faculty

附属農場

附属演習林

附属焼酎・発酵学教育研究センター



職名	氏名
教授	遠城 道雄
准教授	大島 一郎
	朴 炳宰



鹿児島県内の学内外4ヶ所に立地した施設を持つ分散型農場であり、その面積は合計161haに及びます。ここでは、南九州の気候的利点を最大限に生かしながら、地域に密着した作物、園芸、畜産に関する生産と試験・研究に取り組んでいます。学生実習は質量とも多岐にわたり、講義や実験で得た知識や技術を実際の農業の場で生かし、「農」の総合性を理解することに重点を置いています。

学内農場農事部(3.20ha)

輪作や緑肥作物を取り入れた作付け体系、施設栽培により、普通作物や園芸作物の栽培が行われ、キャンパス内に位置することから、研究室の研究だけでなく、その圃場の多くが学部学生の実習にも使われています。また、輪作体系に基づく、持続的農業についての研究も行っています。



田植え

学内農場畜産部

学内農場に隣接し、家畜の生産技術に係わる実習と研究が行われています。キャンパス内にあり、かつ様々な種類の家畜・家禽が飼養されていることから、日常の繁殖、育種、および飼養管理等の業務を実地体験し、それらに係る基本や応用的技術を習得することができます。



ミニブタの飼養管理

唐湊果樹園(7.30ha)

温帯果樹と亜熱帯果樹を主に栽培しています。特にカンキツ、ピワ、カキ、モモ、ブルーベリー、ブドウなどの有用果樹類が豊富に維持され、それらの評価、利用の研究が行われています。実習教育だけでなく、学内外からの研究の場として利用されています。



カンキツ袋掛け

指宿植物試験場(2.89ha)

薩摩半島南端の温暖な気候と温泉熱を利用して、熱帯・亜熱帯性有用作物の導入と順化、暖地作物の栽培についての教育研究が行われています。また、膨大な数の熱帯・亜熱帯性有用作物遺伝資源を収集育成しており、学内外の研究に広く活用されています。



ブーゲンヒリア誘引

入来牧場(147.84ha)

入来牧場では、持続可能な畜産業の実践をテーマとして、150haという広大な敷地を活用した放牧による繁殖牛飼養、子牛生産、牛肉生産に関する教育・研究を展開しています。また、南西諸島の貴重な遺伝資源であるトカラウマや口之島野生化牛も飼養されています。



牧場から見られる雲海

教員からのメッセージ



津田 勝男 附属農場長

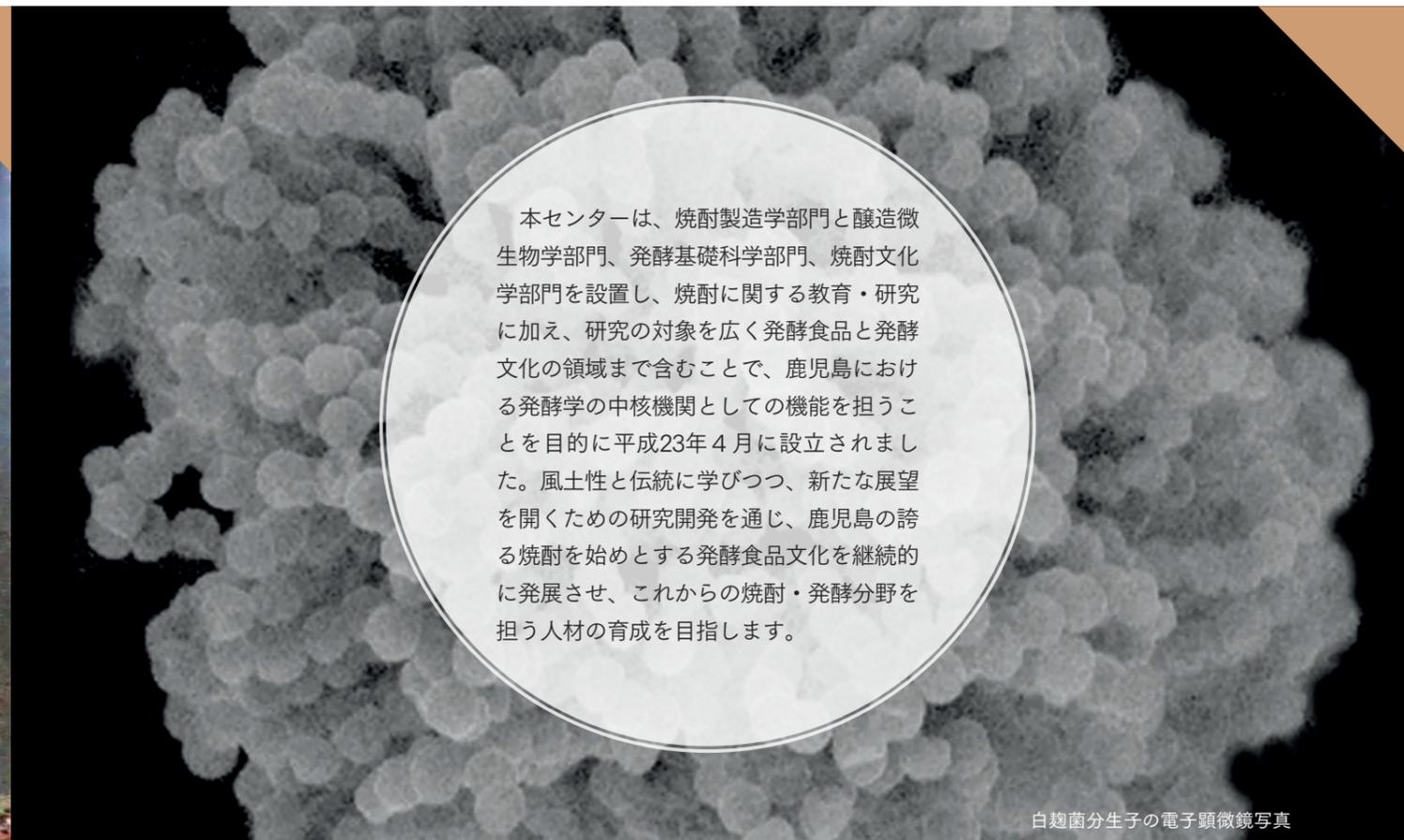
農学を学び、農業を理解するためには講義で得た知識だけでは十分ではありません。講義で学習した理論を体験して実践すること、つまり自分自身で植物を栽培したり家畜を飼養することが不可欠です。大学における農業実践の場として附属農場は設けられています。鹿児島大学農学部附属農場では各植物の栽培や家畜の飼養に適した場所に農場、果樹園、植物園や牧場を配置しており、温帯から熱帯にわたる幅広い農業・畜産業を実際に体験して学習することが可能です。また、附属農場は農業技術を学ぶ場としてだけでなく、新たな農業技術や品種の開発、遺伝資源の保存など様々な目的で利用されており、農学部の教育研究において極めて重要な役割を果たしています。私はこのような体験や実践、研究を通して学生が人間的にも成長することを期待しています。

○学位/農学博士(九州大学) ○専門/害虫学、昆虫病理学
○担当授業/害虫学、生物的防除論

職名	氏名
准教授	井倉 洋二
助教	牧野 耕輔



森林・林業に関する教育研究のために3400haの広大な森林が用意されています。森林科学コース（農林環境科学科）の学生を中心に、たくさんの実習科目で演習林を活用します。実習では宿舎で合宿生活をしながら、樹木、育林、計測、生態、林産、砂防、環境教育などのさまざまな分野を実地で学びます。最近では共通教育科目や他大学の授業などにも多数利用されています。



本センターは、焼酎製造学部門と醸造微生物学部門、発酵基礎科学部門、焼酎文化学部門を設置し、焼酎に関する教育・研究に加え、研究の対象を広く発酵食品と発酵文化の領域まで含むことで、鹿児島における発酵学の中核機関としての機能を担うことを目的に平成23年4月に設立されました。風土性と伝統に学びつつ、新たな展望を開くための研究開発を通じ、鹿児島の誇る焼酎を始めとする発酵食品文化を継続的に発展させ、これからの焼酎・発酵分野を担う人材の育成を目指します。

白麹菌分生子の電子顕微鏡写真

高隈演習林(3061ha)

大隅半島の垂水市にあり、照葉樹林と屋久杉などの人工林がおよそ半分ずつを占めています。人工林は施業をしながらさまざまなタイプの森林を整備しています。ほとんどの試験研究と実習がここで行われています。



演習林宿舎

佐多演習林(299ha)

九州最南端の地にあり、亜熱帯的要素を含む特有の動植物が豊富で、貴重な教育研究材料を提供してくれます。

桜島溶岩実験場(37ha)

大正3年の桜島大噴火で流出した溶岩台地にあり、不毛の岩石地がしだいに森林化してゆく植生遷移の研究の場となっています。

研究テーマ

- スギ林の施業と高品質大径材の育成
- 様々な樹種の遺伝子保存と育成
- 林業生産システムに関する研究
- 森林環境教育と農山村の地域づくり
- 低コスト造林の実証実験
- 野生鳥獣の生息状況モニタリング



焼酎・発酵学教育研究センター(北辰蔵)



麺づくり



きき酒

北辰蔵(焼酎製造実習棟)

麹室、発酵試験室、研究用ガラス製蒸留器および小型実用蒸留器を備えており、焼酎造りの主な工程を行うことができます。また、造った焼酎の香り、成分の分析装置やきき酒を行う官能検査室もあります。

研究テーマ

- 焼酎・発酵食品の香気成分の同定と生成機構
- 発酵食品の機能性の検索
- 醸造微生物の機能解明
- 醸造微生物の育種
- 焼酎副産物の機能性解明・用途開発

研究部門

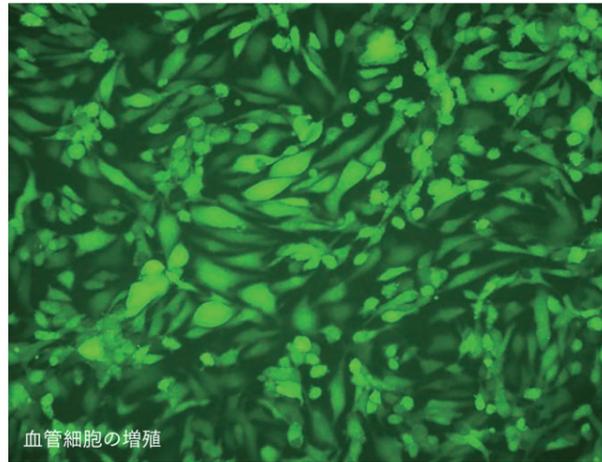
- 焼酎製造学部門
- 醸造微生物学部門
- 発酵基礎科学部門
- 焼酎文化学部門

職名	氏名
教授	高峯 和則
	玉置 尚徳
准教授	二神 泰基
	吉崎由美子
特任助教	奥津 果優

食料基地である南九州の地域創生支援



天敵微生物(糸状菌)に侵された新規侵入害虫ツマジロクサヨトウ



血管細胞の増殖

農水融合の高度な実践教育

本研究科は、国内有数の食料供給地である南九州から東南アジア・南太平洋を視野に、人々の健全な生活基盤である農林水産業・食・環境・生命科学の分野の高度専門教育を行い、資源の持続的生産とその合理的利用及び環境保全に対応するスペシャリストの養成を目指しています。これによって、急速にグローバル化する産業構造の変化、地球規模での環境変動、ならびに地方で特に深刻な労働力人口の激減など、地域と世界が直面する課題の解決に貢献しようとするものです。

これらの課題を解決するために、質の高い農水融合型教育の強化を目指し、既存の農学研究科と水産学研究科を統合して農林資源科学専攻、食品創成科学専攻、環境フィールド科学専攻、水産資源科学専攻の4専攻で構成する農林水産学研究科を設置しました。

農林資源科学専攻

ICT農林畜産業に関する高度な知識や高度なマーケティング能力を有した人材、鳥獣害・過疎化等への対応、地域や市場ニーズに適應可能な人材育成を行います。

環境フィールド科学専攻

農学分野と水産学分野双方の高度な知識を有し、環境科学を活かし地域の課題解決(環黒潮圏、資源変動、自然災害、環境保全等)に貢献できる人材育成を行います。

食品創成科学専攻

農学分野と水産学分野双方の高度な知識を有し、食の安全・品質保証・グローバル化に適應可能な人材育成を行います。

水産資源科学専攻

水産業の課題解決(持続的生産、養殖生産効率化、漁場保全、流通政策、アジア市場開拓等)に向けた高度な知識を有する人材育成を行います。

3大学連携の教育・研究体制を持つ農水産系研究科

ユニークな教育・研究体制で成果を発揮

本研究科は下記の3大学の農水産学学部、大学院修士課程研究科を母体として鹿児島大学に農水産系の博士課程を設置した連合型の大学院です。ユニークな教育・研究体制を持ち、これまで多くの博士を誕生させています。

佐賀大学	農学部・大学院農学研究科・大学院先進健康科学研究科
鹿児島大学	農学部・大学院農林水産学研究科
鹿児島大学	水産学部・大学院農林水産学研究科
琉球大学	農学部・大学院農学研究科

本研究科は3専攻・9連合講座からなり、博士(農学)、博士(水産学)または博士(学術)の学位を取得することができます。

学生に対して3名からなる指導教員が研究指導体制をとることにより、きめ細かな教育を受けることができます。

本研究科には、アジア、アフリカ、中南米などからの多くの留学生が学んでおり、日本の社会に溶け込んで、日々研究活動に励んでいます。



連合農学研究科研究棟

専攻名	専攻内容	連合講座名	定員
生物生産科学	農産物の生産向上と熱帯・亜熱帯資源の活用、農林水産物の流通及び国際政策、食料生産システムの構築、品種改良及び新作物の創生並びに効率的な家畜生産において専門的な教育を行い、農水産業の発展に寄与できる、高度の専門的能力と豊かな学識を備えた人材を養成する。	熱帯資源・植物生産科学	7
		動物資源生産科学	
		地域・国際資源経済学	
応用生命科学	生物資源の有効活用、未利用資源及び廃棄物の有効利用、食品の機能開発、食の安全管理、食と健康、先端的バイオサイエンス及びバイオテクノロジー並びに分子から個体に至る機能開発において専門的な教育を行い、農水産業の発展に寄与できる、高度の専門的能力と豊かな学識を備えた人材を養成する。	生物機能化学	8*
		食品機能科学	
		先端応用生命科学	
		連携大学院タカラバイオ(株)	
農水圏資源環境科学	農水圏における食料資源環境の整備・保全、食料生産の向上及び貯蔵・輸送の効率化、農作物の生物防御、森林環境の保全と資源保護並びに水産資源及び環境の保全において専門的な教育を行い、農水産業の発展に寄与できる、高度の専門的能力と豊かな学識を備えた人材を養成する。	生物環境保全科学	8
		地域資源環境工学	
		水産資源環境科学	

*タカラバイオ(株)との連携大学院定員1名を含む

(令和4年4月1日現在)

大学院連合農学研究科 シンボルマーク

デザインコンセプト

鹿児島大学大学院連合農学研究科を構成する4つの農水産学学部を4枚の羽根で表現し、連合農学研究科が今後ますます発展するようという意味が込められている。青い羽根は水産学部、緑の羽根は農学部をイメージし、デザインを取り囲む円の部分は緑の大地を表現している。





学会賞等の受賞

2021-2022

2021

日本畜産学会第128回大会 優秀発表賞 (2021年3月28日)

中村 南美子 (学生)

「アミノクロウサギの侵入防止に向けたタンカン園における電気柵設置の有効性」

(生産：高山耕二)

日本乳酸菌学会2021年度大会 若手発表優秀賞 (2021年7月10日)

佐々木 優紀 (学生)

「Bifidobacterium longum の菌株特異的なアラビアガム分解メカニズムの全容解明」

(生命：藤田清貴)

Excellent Poster Award, the 38th International Society for Animal Genetics Virtual Conference (2021年7月30日)

「Genetic diversity and population structure of Myanmar native chickens using Double digest restriction-site associated DNA sequencing (ddRAD-Seq)」

(生産：Su Lai Yee Mon, Kotaro KAWABE, Shin OKAMOTO, Takeshi SHIMOGIRI)

第63回日本平滑筋学会総会 優秀演題賞 (2021年8月7日)

Fisetin による血管異常収縮予防の可能性と細胞膜上マイクロドメインの役割

(生命：鶴留奈津子、南雄二、加治屋勝子)

食農資源経済学会学会誌賞 (2021年8月28日)

「遠隔暖地における野菜農家の出荷行動 - 鹿児島県長島町のばれいしょ農家を対象に -」

(生産：坂井教郎・田代正一・内藤重之・伊村達児)

日本農芸化学会2021年度西日本・中四国・関西支部合同大会優秀発表賞 (2021年9月24日、25日)

「天然資源由来新規アジュバント機能成分の探索および組換えタンパク質による新規アジュバント分子の開発」

(生命：里圭太、宮田健)

日本醸造協会技術賞 (2021年10月1日)

「芋焼酎の品質に関する要因の研究」

(生命：高峯和則、吉崎由美子、奥津果優)

日本醸造学会奨励賞 (2021年10月1日)

「食品への利用拡大を目指した紅麹および紅麹菌の機能解析」

(生命：吉崎由美子)

第58回下水道研究発表会 ポスター発表部門 優秀賞 (2021年10月29日)

「下水処理水と礫を使用した非循環式水耕によるカリウム低減作物の栽培」

(生命：渡部由香・樗木直也・赤木功)

第38回 YEAST WORKSHOP ポスター賞 (2021年11月26日)

交配による焼酎酵母の育種

(生命：井之上拓巳、二神泰基、玉置尚徳)

2022

Journal of Forest Research Award 2022 (2022年3月27日)

Latitudinal and altitudinal variations across temperate to subtropical forests from southern Kyushu to the northern Ryukyu Archipelago, Japan

(環境：Shin-Ichiro Aiba, Yusuke Kira, Koume Araki, Fumiko Imamura, Taizo Ishinuki, Takafumi Nagata, Soichio Shimonishi, Shin Ugawa, Seiji Wakiyama, Toshihiro Yamada, Tsuyoshi Yoneda, Eizi Suzuki)



国際交流・外国人留学生

本学部では、現在、本学部の教職員が窓口となり、下記の約30大学と学術交流協定および学生交流覚書を締結して、共同研究、教員の交流、学生の交流を実施しています。外国人留学生は、中国、東南アジアを中心に、毎年約20カ国、約90名を受け入れ、本学部からは毎年数名を派遣しています。さらに、短期海外実習として数十名の学生が毎年海外へ出かけています。

国際交流協定締結大学[部局間学術交流協定]

締結大学	国名	締結年月日
中国文化大学 農学院	台湾	平成24年10月3日
リロングウェ 農業天然資源大学	マラウイ	平成28年8月23日
メーファンラン大学 農産学部	タイ国	平成28年11月14日
セント・ オーガスティン大学	タンザニア連合共和国	平成30年4月19日
華中農業大学	中華人民共和国(中国)	平成30年5月22日
ガウハティ大学	インドネシア共和国	平成30年11月22日
ヌエボ レオン自治大学	メキシコ合衆国	平成31年1月22日
マラウイ科学技術大学	マラウイ共和国	平成31年3月25日

(令和4年1月1日現在)

国際交流協定締結大学[大学間学術交流協定]

締結大学	国名	締結年月日
ジョージア大学	アメリカ合衆国	昭和54年11月29日
雲南農業大学	中華人民共和国(中国)	平成元年5月11日
湖南農業大学	中華人民共和国(中国)	平成元年6月2日
バレンシア工芸大学	スペイン	平成12年2月7日
メジョー大学	タイ王国	平成13年4月30日
国立モンクット王 トンブリ工科大学	タイ王国	平成14年1月16日
ベトナム国家農業大学	ベトナム社会主義共和国	平成14年3月6日
江原大学校	大韓民国	平成14年4月5日
アングラス大学	インドネシア共和国	平成15年12月1日
カフルアッシュアッフ大学	エジプト	平成23年9月5日
四川大学錦江学院	中華人民共和国(中国)	平成23年12月16日
ロッテンブルク 林業大学	ドイツ	平成25年11月5日
スリウィジャヤ大学	インドネシア共和国	平成27年11月2日
ベンハ大学	エジプト・アラブ共和国	平成30年6月22日
ノースダコタ州立大学	アメリカ合衆国	平成26年1月15日
スロバキア農業大学	スロバキア	平成27年5月1日
忠北大学校	大韓民国	平成28年8月18日
カントー大学	ベトナム社会主義共和国	平成21年5月25日
セントラル クイーンズランド大学	オーストラリア連邦	令和元年12月5日

(令和4年1月1日現在)

教員の海外渡航数と外国人研究者の受入れ数

※コロナの影響により受入れはない

短期交換留学生数

※コロナの影響により短期交換留学中止

外国人留学生数

地域	国名	学部	修士*	博士*	計	
アジア	インドネシア共和国		2		2	
	タイ王国		1		1	
	大韓民国(韓国)	11	1		12	
	中華人民共和国(中国)	7	6	9	22	
	ベトナム社会主義共和国	16	9		25	
	ミャンマー連邦共和国			1	1	
	ラオス人民民主共和国			2	2	
	マレーシア		1		1	
	フィリピン		1		1	
アフリカ	ケニア		2		2	
	ウガンダ共和国		1	1	2	
	エリトリア国		1		1	
	ベナン共和国			2	2	
	シエラレオネ		1		1	
大洋州	フィジー共和国		2		2	
中南米	ガイアナ共和国			1	1	
北米	アメリカ合衆国			1	1	
計			34	28	17	79

* 鹿大農学部教員が主指導教員となっている学生 * 研究生を含む (令和3年10月1日現在)

農学部 の 4 年間

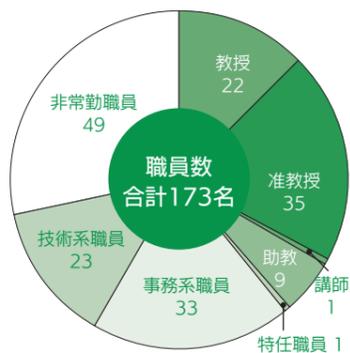
1年生 主な科目		2年生 主な科目		3年生 主な科目		4年生 卒業研究・ゼミ	
農業生産科学科	◆学部専門科目 農学入門 農業と社会	応用植物科学概論 畜産科学概論 遺伝学 農場実習	教育コースへの配属	■応用植物科学コース 栽培技術論 果樹園芸学 作物学	農場実習Ⅱ 植物生産学実験Ⅱ 植物生産学実験Ⅲ 植物生産学応用実験 植物生産学実地研修	欧文講読 卒業論文	
	◆共通教育科目 初年次セミナーⅠ 初年次セミナーⅡ 大学と地域 体育・健康 情報活用 英語 異文化理解入門	有機化学 無機化学 生物化学Ⅰ 生物化学Ⅱ 食料生命科学序論		■畜産科学コース 畜産学 応用動物行動学 家畜育種学	飼料化学 動物発生工学 家畜解剖学演習 畜産物加工実習	家畜人工繁殖学実習 欧文講読 卒業論文	
				■食料農業経済学コース 農産物価格理論 農業経営学 フードシステム入門	農産物流通論 農産物マーケティング論 農業構造論 農村計画学	農村課題解決プログラム 欧文講読 卒業論文	
				◆教養教育科目 人文・社会科学分野科目 自然科学分野科目 総合Ⅰ(課題発見) 総合Ⅱ(課題解決)	森林科学概論 地域環境システム学概論 スマート農学概論	教育コースへの配属	応用微生物学 食品化学 代謝生化学 基礎分子生物学 植物生理学 品質管理システム学 酵素化学 分析化学 栄養化学 食品微生物学 食品機能学 細胞分子生物学
■森林科学コース 森林生態学 森林保護学 森林経済学	■食環境制御科学コース 植物栄養・肥科学 植物病理学 青果保蔵学 土壌科学 暖地農業実習 食環境微生物学	食環境制御科学英語 卒業論文					
■地域環境システム学コース 農業気象環境学 環境水理学 地盤環境工学	■焼酎発酵・微生物科学コース 焼酎製造学 焼酎製造学実験 排水処理論 発酵食品製造実習 醸造微生物学	実践経営論 焼酎発酵・微生物科学英語 卒業論文					
農林環境科学科	■スマート農学コース 農業気象環境学 災害地形学 キャリアデザイン 農林業ICT論	教育コースへの配属	育林学 森林利用学 地域計画学 砂防学 森林科学欧文演習	国際森林論 卒業論文			
			農業水利環境学 環境計測学 農地保全学 地域環境情報解析学 専門英語	国民経済と農業 卒業論文			
特別コース 国際食料資源学	実用英語A,B,C 国際開発学 水産学概論 キャリアデザイン	教育コースへの配属	測量学Ⅱ 測量学実習Ⅱ 農産物流通論 育林学 地域計測学	卒業論文 国際森林論			
			実用英語D 海外研修 国際食料資源学 Elements of Agricultural Science Elements of Fisheries Science	卒業プロジェクト			
			卒業プロジェクト	卒業プロジェクト			

大学院進学・就職

※3、4年次から研究室配属が決まり、指導教員の下で卒業論文・プロジェクト研究を行います。
 ※インターンシップや就職活動、大学院進学準備も研究活動と並行して行います。

農学部 の主な進路

職員数(現員) (令和4年4月1日現在)

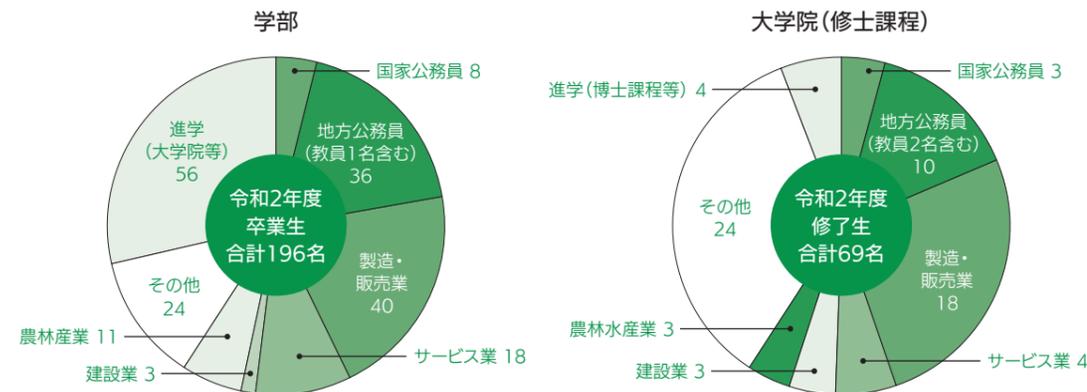


学生定員現員

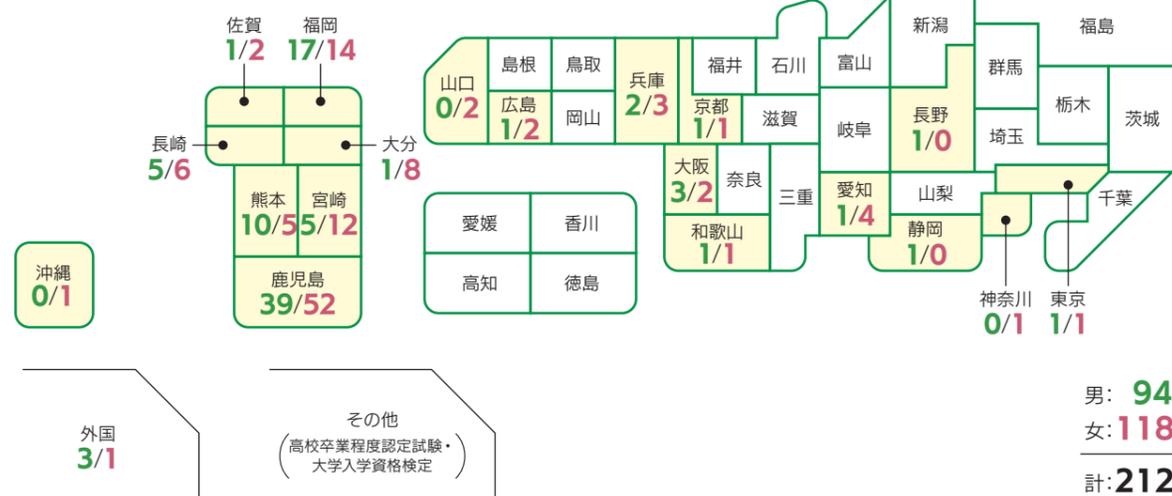
区分	学 科	令和3年度 入学定員	現 員				計
			1年次	2年次	3年次	4年次	
農学部	農業生産科学科	75	86 (48)	83 (44)	87 (46)	100 (41)	356 (179)
	食料生命科学科	70	69 (50)	72 (48)	71 (47)	80 (41)	292 (186)
	農林環境科学科	60	60 (23)	70 (29)	64 (22)	63 (15)	257 (89)
	生物生産学科					2 (1)	2 (1)
	生物資源化学科					1 (0)	1 (0)
	生物環境学科					1 (0)	1 (0)
	計		205	215 (121)	225 (121)	222 (115)	247 (98)

*()内は女子数で内数を示す (令和3年5月1日現在)

進路状況



令和3年度 出身高校所在地による入学者数



取得できる資格

農業生産科学科	食料生命科学科	農林環境科学科
家畜人工授精師 (受精卵移植も含む) (資格) (畜産科学)	食品衛生管理者※ (任用資格)	測量士補 (資格)
飼料製造管理者※ (任用資格) (畜産科学)	食品衛生監視員※ (任用資格)	樹木医補 (資格)
食品衛生管理者※ (任用資格) (畜産科学)		森林情報士2級 (※資格)
食品衛生監視員※ (任用資格) (畜産科学)		自然再生士補 (資格)
食鳥処理衛生管理者 (任用資格) (畜産科学)		

※卒業後、食品衛生に関連する職種について取得できる資格です。
※国際食料資源学特別コースは除く。
※末尾の赤字表記は、免許・資格を取得できるコースを示しています。

取得できる教員免許

学科・専攻	免許状の種類	免許教科
農業生産科学科	中学校教諭一種	理科
	高等学校教諭一種	農業・理科
食料生命科学科	中学校教諭一種	理科
	高等学校教諭一種	農業・理科
農林環境科学科	中学校教諭一種	理科
	高等学校教諭一種	農業・理科

